

第5章

中国における産業別顕示比較優位（RCA）指数（1992～2010年）

三尾寿幸

1992～2000年に平均14.4%であった中国の輸出増加率は、2001～10年に21.9%に上昇した。これらの期間の輸出はどのような産業により行われ、産業別の顕示比較優位（RCA）指数で示される輸出パフォーマンスはどのようなようであっただろうか。もし輸出商品が産業別に集計されれば、産業別の輸出額とRCA指数が計算される。

木下・山田 [1993] は、集計的な20産業と標準国際貿易商品分類改訂第1版（SITC Rev. 1）と同改訂第2版（SITC Rev. 2）の対応表を作成した。しかし、同表は国際標準産業分類に基づいていない。他方、Eurostat は、国際標準産業分類改訂第3版（ISIC Rev. 3）とSITC Rev. 3の対応表をウェブサイト公開した。しかし、Eurostatの対応表では少数の産業への集計は行われていない。そこで、第1節では、木下・山田 [1993] 表に倣い、国際標準産業分類に基づくEurostatの対応表により、集計的な21産業の対応表が作成された（附表1）。

第2節では、木下・山田 [1993] 表に基づく野田・黒子 [2006] に倣い、第1節で作成された集計的な対応表により、1992～2010年の中国における21産業の輸出額（表2）と顕示比較優位指数が計算された（表3、図1（1.1.-1.2.））。

計算の結果、以下の主要な知見が得られた。1992～2010年の中国の輸出は、資本集約的産業と、労働集約的産業による輸出の併存により特徴づけられる。

1992～2010年に、資本集約的産業であるラジオ、テレビ及び通信機器製造業と事務用、会計及び計

算機械製造業の輸出は、それぞれ総輸出の14.6%、12.1%を占めた。また、労働集約的産業である繊維・繊維製品、革・革製品の製造業及び家具製造業；他に分類されない製造業の輸出は、それぞれ総輸出の20.1%、6.2%を占めた。

1992～2000年（前期）から2001～10年（後期）に、上記2つの労働集約的産業を合計した輸出増加率は平均10.9%から16.6%に上昇した。他方、上記2つの資本集約的産業を合計した輸出増加率は、それぞれ前期と後期に30.0%、26.8%と、2つの労働集約的産業を合計した輸出増加率を上回った。

2つの資本集約的産業のRCA指数は、前期から後期に、ラジオ、テレビ及び通信機器製造業において0.97から1.87、また、事務用、会計及び計算機械製造業において0.92から2.98へ上昇した。事務用、会計及び計算機械製造業のRCA指数は、2000～03年に1.24から2.76と、とりわけ急速に上昇した。ラジオ、テレビ及び通信機器製造業と、事務用、会計及び計算機械製造業における1992～2010年全期間のRCA指数は、それぞれ1.74と2.56であった。

2つの労働集約的産業のRCA指数は、前期から後期に、繊維・繊維製品、革・革製品の製造業において4.05から3.19、また、家具製造業；他に分類されない製造業において2.50から2.11へ低下した。繊維・繊維製品、革・革製品の製造業と、家具製造業；他に分類されない製造業における全期間のRCA指数は、それぞれ3.18、2.13と比較的高い水準を記録した。